



第44回九州インタークラブ競技大会

競技報告 (2014/10/22)

写真と記事 : M. Kikutake

2年ぶり 13度目のV

栄冠は「大博多CC」(福岡県南部)の頭上に



ベストグロス賞は74のスコアで3人に

佐藤憲一(大分)、榎隆則(大分中央)、尾家清孝(周防灘)



福岡県飯塚市のJR内野カントリークラブ(6838坪、パー72)で22日、27チームが参加して行われ、トータルスコア391の「大博多カントリー倶楽部」(福岡県南部地区)が2年ぶり13度目の優勝を飾った。

出場者中のベストスコアに贈られるベストグロス賞は、74で回った佐藤憲一(大分)、榎隆則(大分中央)、尾家清孝(周防灘)の3選手が受賞した。

(写真は⑬13度目の優勝を飾った「大博多CC」チーム。⑭はベストグロス賞を獲得した⑭から尾家清孝、佐藤憲一、榎隆則の各選手)

大会は連盟(GUK)主催競技の唯一の団体競技で、1チームは学生・生徒を除く6人(うち55歳以上3人)で構成され、このうちのベスト5人のトータルスコアで優勝を争う。11県地区で行われた予選にはGUKに加盟する計194倶楽部が参加。予選を勝ち抜いた26倶楽部と開催倶楽部の計27倶楽部チームが本戦出場した。

トータルスコアで争う団体競技とはいえ、1打を争う熱戦もみられ、各県地区予選の沖縄県では、前年九州大会優勝の「ベルビーチGC」が敗退する波乱もあった。

トータル 391 のスコア

2位の「ザ・クラシックGC」に5打差の勝利

決勝大会が行われた筑豊地方はこの日、終日霧雨が降り続く恵まれないコンディションで、選手はスコアメイクに苦心。(雨、気温 17.1 度、北北西の風 3.2m=正午現在)

そんな中、「大博多CC」チームは大崩れすることなく全員が平均した力を発揮。2位の「ザ・クラシックゴルフ倶楽部」(福岡県北部)に5打差をつけての勝利だった。

「ザ・クラシックGC」は「小倉カンツリー倶楽部」(福岡県北部)と 396 の同スコアで並んだが、規定により6人全員の合計スコアで上回って2位になり、「小倉CC」が3位だった。



「自分のゾーンに入ろう」

メンバーの自覚で勝ちとった大博多の“復活V”



終日の霧雨。フェアウエーはたっぷりと水を含み、ランが出ない。気温は 17 度と冷えた。

そんな中で、選手 6 人が安定した力を発揮して勝利をもぎ取った。「一年での復活が素直にうれしい」と篠塚武久監督は日焼けした表情を崩した。

昨年のこの大会、大博多は 7 連覇がかかっていた。優勝候補の筆頭。誰もがそう思っていたのが、優勝どころか 11 位と低迷した。

それから 1 年。今年も優勝候補というのが衆目の一致するところだったが、ただし、昨年のももあり「絶対」ではなかった。「いったん落ちるとズルズルと行くケースも多い」と篠塚監督で、一抹の不安があったとすればその点だったろう。だから、メンバーの奮起を率直に喜んだのだ。

試合に臨むにあたって篠塚監督が選手に強調したのは、「勝ち負けにこだわらず、自分のゾーンに入ろう、自分のゴルフに徹しようということだった」と言う。「うち

の選手は、スポーツとしてのゴルフへの取り組みがみんなまじめで、好き。ゴルフ道に徹しているんですよ。選手への全幅の信頼に裏打ちされた、“自分のゾーン、だったのだ。”

選手も応えた。集中力が試される悪天下。先の九州シニア選手権で初優勝した大野徹二が 82 のスコアで成績にカウントされない“油虫”になったが、結果的には「みんながそれぞれの力を発揮し、カバーしあった結果の勝利です」(篠塚監督)。

チームが一丸となれる団体戦(インタークラブ)が好き。ゴルフは五輪種目にもなり、2020 年は東京五輪もある。篠塚監督は、「インターをもっともっと盛り上げ、ゴルフ界を刺激していきたい」と話してくれた。(写真は GUK 山下新太郎理事長から優勝盾を受け取る篠塚武久監督)



ベストグロス賞の 3 選手

佐藤憲一 (大分、63 歳) (1 パーディー、3 ボギー) 雨のコンディションだったから、とにかくフェアウエーキープを心がけた。外したのは 1 回だけ。ショットも良くて、3 パットも 1 度だけだった。(インターは) 一度は取りたいタイトル。次はチームで頑張りたい。

榎隆則 (大分中央、55 歳) (後半 2 パーディー、2 ボギー、1 ダブルボギー) 午前中はパープレーで、後半は天気の影響で崩れとともに出入りの激しいゴルフになってしまった。個人的には状態がいいことだし、このあとの(初出場の)日本ミッド

アマ選手権に向けて弾みにしたい。

尾家清孝（周防灘、55 歳） （1バーディー、1ボギー、1ダブルボギー） この嵐の中でよく出来た方だと思う。すぐくショットは切れていたし、距離感も良かった。内容がよかっただけに、5番のダボと14番のボギーがもったいなかった。（初出場の）日本シニアはこれじゃダメだな。